
第 1 回 昭島市総合基本計画審議会 第 2 部会

議 事 要 旨

〔日 時〕 平成 22 年 2 月 17 日（水）19:00～21:00

〔場 所〕 昭島市役所 3 階 庁議室

〔出 席 者〕

1 委員

石崎忠司部会長、平畑文興副部会長、稲員とよの委員、岡田明恵委員、竹村茂己委員、
中野久史委員、長谷川祐司委員、福田晃委員、矢崎まゆみ委員
（欠席者）川元英貴委員

2 事務局

日下企画部長、佐藤総合基本計画担当主幹、別所主査

3 コンサルタント会社

白鳥

〔日 程〕

1 正副部会長の選出について

2 基本計画素案（各論部分）

第 4 章 環境をつなぐ あきしま（循環型社会の形成）について

（1）生活環境

（2）自然環境

（3）地域環境

（4）ごみ処理

3 その他

（1）第 3 回第 2 部会の日程変更について

・変更前 平成 22 年 4 月 22 日（木）

・変更案 平成 22 年 4 月 21 日（水）

〔配布資料〕

・第 1 回 昭島市総合基本計画審議会 第 2 部会 日程

・資料 1 第 4 章 環境をつなぐ あきしま（循環型社会の形成）

〔議事要旨〕

1 正副部会長の選出について

委員の互選により、部会長に石崎会長を、副会長に平畑委員を選出することに決定

2 基本計画素案（総論部分）

【説明】

事務局より、資料1「第4章 環境をつなぐ あきしま（循環型社会の形成）」に基づき説明があった。

【質疑応答・意見】

（1）施策体系図・生活環境

■循環型社会は、一般的にどの程度定着した概念になっているか。【石崎部会長】

■ゴミ処理を中心にした部分や自然環境、生活環境もここに入っているので、循環型社会の形成はだいぶ広い概念に思うが、今までもこのような形で考えてきたのか。【稲員委員】

○前回の計画では、環境の保全と緑の保護育成という項目で、これには、緑の部分で公園整備等が含まれていたもので、循環型社会の形成というタイトルでは幅が広がった。今回の計画では公園の項目が抜けたので、対象は狭くなっているが、ご指摘のとおり、循環型社会の形成では、生活環境の部分がピッタリとこないのかなとも感じている。政策項目のタイトルについては、その項目の中で主要な部分を明記していく、そのような考え方であり、また、循環型社会の形成には地域社会として継続的に発展していくという側面もあり、生活レベルの維持の部分も関連がないわけではない。このような考え方で使わせていただいている。【事務局】

■生活環境の向上という点ではまさにアメニティの問題となり、A、B、Cだけではないという考えも出てきそうですが。【石崎部会長】

○環境の分野では、引き続き、様々な計画の中で循環型社会をつくっていくことが一つの大きなテーマとなっている。従来計画を引き継ぐとともに、項目立てについては身近な生活環境、緑を中心とした自然環境、グローバルレベルでの地球環境の3つの項目として分け、記載しているということでご理解いただきたい。【事務局】

■「ごみ」という言葉は負のイメージがある。環境を良くしていこうというイメージからすると、もう少し明るいイメージの言葉の方がいいのではないか。循環資源という言葉に置き換えることもできるが、それではごみ処理として含まれない部分がある。この部分の考え方は。【稲員委員】

○ご指摘については、市の環境部門とも議論したところである。確かに負のイメージはあるが、ゴミ処理は行政にとって非常に重要な事業であり、きちんと綱目に出して行きたいとの考えから原案のようになった。明るいイメージ、前向きなイメージも掘めた方がいいのではないかと、とご指摘もいただいたので、担当と調整して検討したい。【事務局】

■ごみをリサイクルするにはエネルギーも必要である。エネルギーを使わないためにごみをなくす、ごみゼロを目指す企業もある。減量ではなくゼロを目指すことが必要ではないか。【平畑副部長】

○ゼロエミッションという環境への取組みに力を入れている企業もたくさんあると聞いている。そういった取組みは大切にしていきたいが、ゴミ処理を担う行政としては、なかなかゼロまでは難しい、まずはどれだけ減らしていけるのかだと考えている。エコセメントへの導入は多摩地域だけやっている最新の取り組みであり、それらを進めながら家庭では少しでもごみを減らしてもらおう。企業の中でも限りなくゼロに向かって進んでもらい、限りなくゼロに向かって進んでいってもらおうことが重要だと思う。【事務局】

■循環型社会の理念はロハス（健康と持続可能性を大切にする生活スタイル）であると思うが、そうすると、どこかに「健康」という言葉があってもいいのではないかと気がしないでもない。市民からはそんな意見があるかもしれないと思う。

3 ページの政策指標、「公害苦情相談受付件数」の数値にはどういう意味があるのか。市民からの積極的提案も苦情相談となるのか。少なければいいということではないと思う。【石崎部長】

○指標については、全体的に検討する中で、市民にわかりやすい指標がいいのではないかと、ということでお示しした。最終的にはどんなものがいいのか、審議会でご意見をいただきながら決めていきたい。【事務局】

■3 ページの基本施策のA 生活環境の向上の2 行目、「環境汚染源と思われる工場など～」の部分は具体化すぎて、イメージ的にどうかなとも思う、表現を工夫したらどうか。【長谷川委員】

○ご指摘を踏まえ、担当課と表現について調整する。【事務局】

（2）自然環境

■「奥多摩・昭島市民の森」事業とは何か。【稲員委員】

○奥多摩に森を育てていく場所を設け、市民ボランティア活動の中で森林体験や水の涵養について役立つ実体験の場として、緑を守っていくモデル事業として位置づけている。【事務局】

■地下水涵養、森林体験の話と、地下水の循環利用の話では性質が違ってくると思うので、文章の繋ぎ方を考えた方がいいのではないかと。【稲員委員】

○昭島市の場合、水道水が地下水 100%であることから、地下水や雨水を大切にすることが東京で唯一地下水 100%の水道水を供給している市の特性の維持につながるという背景がある。市民が植林し、森を管理することによって地下水の涵養・促進を図り、森林があることによって地下水が飲める、ということと一緒に体験していく取り組みを引き続きやっていきたいと思います、ということがこのフレーズの基本的な根底である。【事務局】

■雨水の循環利用という表記について、自然の水循環サイクルの中で、というようなことを書き込まれた方が、イメージがはっきりするのではないかと。【稲員委員】

○文言については、担当課と調整し、検討したい。【事務局】

■ 4 ページの現状と課題のところ、「水辺の楽校」事業とは、市ではどのような事業をやっているのか、内容的にどういう意識でここに入れたのか。【竹村委員】

○昭島市として、大きなポイントとなっている事業である。自然を大切にする心を、子どもたちを中心に、市民と共に育んでいく一つの体験の場として、市としてサポートしながら続けていき、一つの柱となる事業としていきたいと考えている。自然を大切にする心を市民とともに育んでいく一つの事例として挙げている。【事務局】

■残念ながら予算的には非常にわずかなものなので、これだと、昭島市の事業のようにも感じられる、柱となる事業となるものだとの考えも聞いたので期待したい。【竹村委員】

■ 6 ページの政策指標、みどり率の現況が 44.32%で、目標値が 45%では低いのではないかと、そんな質問が出るように思うが、現状として向上は難しいのか。【石崎部会長】

○緑被率を今回「みどり率」に変えた。現状、都市化も進んでおり、立川基地跡地の開発計画もある。このようなことからみどり率は下がってしまうことが想定される。みどりの担当としては、少なくとも現状維持以上の目標を持ち、一軒一軒の庭やマンション緑化についても大切にしながら緑を増やしていきたい、このような考えから現状維持という方向性で目標値を設定している。【事務局】

■そのような考えなら、「現状維持」を強調した方がいいのではないかと思います。

また、6 ページの政策指標、「雨水浸透施設助成数」とは地下水になる設備だと思うが、例えばトイレで使っているということではないのか。【岡田委員】

○企業などが浸透施設を作った場合、一定割合で助成をする制度を取っている。【事務局】

■生活用水に使うための補助は、考えていないのか。【岡田委員】

○みどり率は現状維持が明確になれば、書き方を工夫したい。また、雨水の再利用については規模が大きい施設でないと難しい。大きな施設を民間でつくられる場合には、企業の環境に対する配慮として対応していただきたいとの考えから、補助は考えていない。【事務局】

■主な取組に比べて政策指標が少ないように感じる。なかなか難しいとは思っているのだが、市民として具体的わかるような項目がもう少し欲しいと思う。【岡田委員】

○指標については、市内部でもいろいろな意見が出ているところである。現時点では案ということで、指標についての考え方は全体の流れが見えるようになった時点で、ただいま頂戴した意見なども踏まえ、審議会でも再度検討をお願いしたい。【事務局】

■目標値とすることは、達成したかどうかを問われることとなるので、その点についても十分に配慮していただきたい。【石崎部会長】

(3) 地域環境

■リサイクル率の多摩平均値との関係はどうなっているのか。

リサイクル率の目標値 49%がアップするために、具体的に推進していくような話があるのか。【稲員委員】

○リサイクル率については、手元に資料がないので次回報告する。

目標値については、昭島市の一般廃棄物処理基本計画から目標をそのまま持ってきたものであり、事業系ごみの排出量を 3000t 減らすことなど、かなり目標値として高いものである。これは、計画策定の審議会において、このような時代だからこそ、目標を高く持ち、それに

向けて努力していくという考えから設定されたものだと聞いている。また、新たなリサイクル施設を活用しながら、今までできなかった新たなリサイクルを市民と協働して考えていく、こんな取り組みも考えている。【事務局】

■9 ページの下から6行目、3R（スリーアール）について、具体的に「リユース、リデュース、リサイクル」と入れた方が分かり易いのではないか。【石崎部会長】

○他の部分でも説明しているので同じような形で入れて、なおかつ巻末に説明を入れるよう修正したい。【事務局】

■8 ページの「エネルギーの地産地消」は、最近よく使われるのか。【岡田委員】

○新エネルギー分野で使う言葉で、太陽光発電、風力発電など自分たちの作った電気を自分たちで使っていく、ということに使われている。【事務局】

■みどり率を増やしたり緑を残したりするためには、季節ごとに剪定や秋になれば枯葉が落ちたりするが、昭島市ではどのように処理、再利用するのか。【長谷川委員】

○剪定した枝なども一部リサイクルを手がけているが、枝は枝、葉なら葉だけに分別する必要があり、現時点では一定の管理下で集めた枝や葉しか再利用できていない。そういったことから市役所で公園の剪定など、一定の配慮をしたもの以外は焼却をしているのが現状である。新しい昭島市環境コミュニケーションセンターも整備されるので、この施設を中心に市民側には訴えていきたいと思う。【事務局】

■7 ページの「エコ通勤」「エコドライブの」の実施とは、具体的にはどんな形をしているのか。【矢崎委員】

○エコ通勤は、日にちを決めて「車を使うのは、やめましょう」と訴えている。エコドライブは庁用車の運転について、急発進、急停車をしないことでエネルギーの消費を抑制していくことからやさしい運転を心がけましょう、というステッカーを貼ったり、職員に庁内メールで配信するなど呼びかけの運動をしている。【事務局】

■全体を通して何かお気づきの点は。【石崎部会長】

■2 ページの現状と課題で、美化活動と大気測定調査、交通騒音調査、工場の立ち入り調査が一文に入っているのはどうか。【竹村委員】

○言い回し等について工夫して検討する。【事務局】

■表現、文章の繋がり、その背景について分かれば読みやすくなるということで、表現上の問題だと思いますが、修正が可能であれば、検討し、修正していただくよう配慮してください。【石崎部会長】

3 その他

- ・事務局より、第3回第2部会の日程変更について、変更案を4月21日（水）開催としての提案があり、了承された。
- ・次回は、3月25日の開催を予定している。